

文芸きくち

万句の里俳句会 9月例会

朝風をかすかにとらへほたる草
 激動を耐え来し老母逝きし秋
 それぞれに好みの枝や小鳥来る
 遠山の手にとる様な秋の空
 静けさの中に水音釣舟草

守井理恵子
 宮本 敏子
 光本とよいち
 隈部 輝子
 田中 美智

七城短歌会 9月詠草

散歩路の我を追い越す中学生「今日は」と太き声掛けくるる
 担い手の減りしを庇い菊人形仕立てし友の苦勞しのびぬ
 草をぬく手をば休めて腰下ろす石垣に蛇隙間に潜む
 槌音に誘われ来たる孫の家建築士らが汗拭き精出す
 日を追うに黄金色増す実り穂をさやり揺らして重さ確かむ

高木 精
 佐々 重弘
 嶋田 晴美
 緒方 寛子
 緒方 正俊

せせらぎ俳句会 9月例会

待ちかねし雨新涼を伴いて
 彼岸花巾を利かせて過疎の村
 兄の折りし櫛供える今朝の秋
 朝夕の草取る我を我が褒め
 此の夏や喪服着る日も幾度か

五丁 義昭
 藤本アツ子
 森 正子
 寺本 和子
 藤本 邦治

「里」短歌会 9月詠草

白萩の枝のたわわに咲き満ちて雪かと惑う夕もやのなか
 赤とんぼ幾重に輪となり飛び交いて彼岸過ぎたる庭先に舞う
 朝露と蜘蛛の巣光る秋の庭キンモクセイが香りはじめぬ
 離乳食手づかみ食べて笑まう吾子飢餓の子どもの記事を読む朝
 宮良多鶴子氏の地球の仲間コンサート会場に響く信念の声

松本 和子
 桑野 睦子
 潤井 梨江
 原口 紗季
 緒方 悦子

旭志文芸教室俳句の会 9月詠草

蝸や遠慮がち鳴く夕間暮れ
 労わりの残暑見舞いや身に沁みる
 しなる程つばめ並ぶや原爆忌
 垣根越しお元氣ですか里の盆
 悲しくも散りしガラシや秋の蟬

中尾ヨシコ
 芹川のり子
 水谷 ミネ
 芹川 蓉子
 稗田 達恵

溪流短歌会 10月詠草

明けやらぬ今朝の裏庭露冷えてぼとりと一つ柿落ちる音
 梨ぶどう秋の味覚を頂けば猛暑わすれるひとときもある
 引き揚げ船全員パスと祈りしをまたも保菌者下船かなわす
 涼しげな義母の植えたる白百合よ今年迎える十七回忌
 歳古りて喜怒哀楽も淡くなり奪はるるごと日々は去り逝く

山城 雅子
 堤 よしみ
 山田 弘子
 田中 遙子
 中川 愛子

肥後狂句水笑会 9月例会

ケンカして 今日も一人で飯食わす
 ケンカして 親子でやればすぐなおる
 また台風 保険の払い追っつかん
 あふれとる 早避難せにやおぼくるる
 ケンカして 墓は別居で決めらした

柏原 乗仏
 御手洗三代
 宮上 美由
 井手 水光
 山隈 好茶

菊池短歌会 10月詠草

なめらかに四季移ろへばそこはかと五感のほかの裡の言の葉
 赤き星光れる夜半にみの虫は鳴きてみどりの細枝つづる
 巻き戻し出来ぬ此岸に彷徨ひて遠き昭和の思ひ出尽きぬ

怒留湯健脊
 安藤 則子
 中川 愛子

【お詫びと訂正】広報10月号「万句の里俳句会 9月例会」の5句目の名前に誤りがありました。正しくは次のとおりです。お詫びして訂正いたします。

① かなかなや古利いよいよ荒びたる 宮本 雅子
 ② かなかなや古利いよいよ荒びたる 加藤 妙子

入会希望など詳しくは、それぞれの句会や歌会にお尋ねください。

万句の里俳句会
 せせらぎ俳句会
 旭志文芸教室俳句の会
 肥後狂句水笑会

井芹 ☎090(1342)2151
 藤本 ☎0968(38)4087
 中尾 ☎0968(37)2578
 山隈 ☎0968(38)2051

七城短歌会
 「里」短歌会
 菊池短歌会

佐々 ☎0968(24)3761
 さわやか大学文芸クラブ
 木原 ☎090(5284)2418
 古賀 ☎0968(25)1764